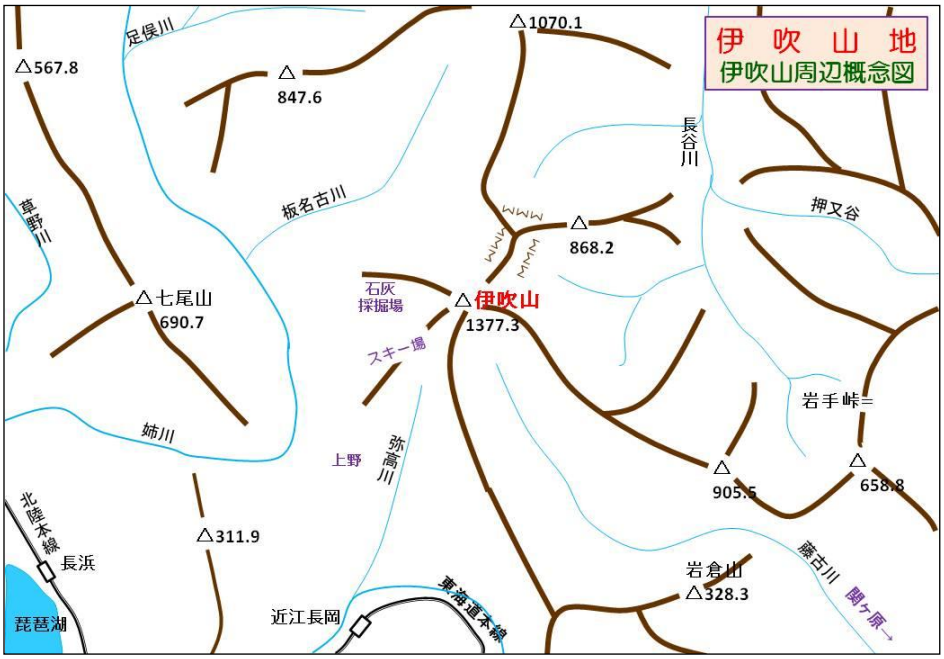
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

伊吹山地	伊吹山	No.216



伊吹山へ行ってみようということになった。恩田の発案によるものだったと記憶している。大阪に単身赴任している吉野に声をかけたら参加すると言ってきた。西と東から寄り合って合流して一日歩くという珍しいプランになった。
昭和 40 年代に一緒に歩いた石関にも声をかけたが、お母さんの命日と重なりこれは叶わず、最終的にメンバーは恩田・小林・鵜飼・吉野の四人になった。

平成３年７月２０日
数少ない東京駅を起点とする山旅。23 時 40 分発大垣行、夏休みに入ったこともあり予想に反して満席。しかも夜行列車ながら湘南型の電車になってしまい、照明が明るくなったので眠りに着きにくい。昔のくすんだ色の列車が懐かしい。缶ビールの力を借りて・・・・。

平成３年７月２１日
大垣 6 時 46 分着、天気は晴。気持ちの良い朝の駅前広場での朝食はニギリメシ・イワシの缶詰・漬物。
伊吹山行のバスは 8 時 10 分発(¥1,300)。バスは西へ進み左手に養老山地、右前方に伊吹山地を見ながら走り関ヶ原駅に到着。ここで大阪から来た吉野が合流し、全メンバーがそろった。
関ヶ原駅から北西に向きを変えて伊吹山ドライブウェイに入り、ぐんぐん高度を上げて行く。海抜 1000m 付近からガスの中に突入。
伊吹山山頂バス停 9 時 35 分着。頂上付近の北面はなだらかな傾斜地の花畑で高山・中山の植物の宝庫。花畑を一周しながら山頂へ。
伊吹山山頂三角点（1377.3m）、ガスの中で遠くの眺めは何も得られない。少しでも陽のあたるところまで下って昼食にしようということになり、南西面のスキー場上部まで下って大休止。

久しぶりに会った仲間で雑談をしながらの昼食は、パン・コンビーフ・スープ・コーヒーなどなど。
食後の休憩もたっぷりとって、スキー場の中でやっているパラグライダーの練習を見ながら下山。
眼下に近江長岡の町、その向こうに広がる米原から虎姫にかけての湖岸の町、そしてその向こうに霞んではいるが琵琶湖が見える。
伊吹山へ来たんだな、と感じ

られる風景が目に入ってくる。
上野の登山口に 15 時 20 分に到着。近江長岡行のバスは 15 時 55 分発、ちょうど良いタイミングだった。
バスは 250 円、近江長岡着 16 時 09 分。
ここで、大阪へ帰る吉野は下りホームへ、他の三人は上りホームへ。次にこのメンバーで出合うのはいつだろうか。ひとつのイベントの終了を記念して、下戸の恩田を尻目に鵜飼と二人で缶ビール。
上り電車は 16 時 28 分発。名古屋で新幹線に乗り換えたように記憶している。

以上

伊吹山地は琵琶湖と敦賀湾からの上昇気流を受ける位置にある。雨の他に、頻繁にかかる霧が適度な水分を提供し、豊富な植物群に貢献しているものと思われる。1300m 台のさほど高くもない山ながら、花畑を堪能できるのもそんな理由からかもしれない。
本来ならば海抜 120m程の近江長岡または関ヶ原から歩くべきところを、大垣から山頂までバスを利用した。このため、「登ることにより山の大きさを感じる」ということはできなかったが・・・。
滅多に機会がないと思われる関西の山を体験することができた。